

令和 5 年 5 月 21 日現在

機関番号：14401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2022

課題番号：19K23340

研究課題名（和文）ケニア農村部における中等教育から高等教育への移行に関する追跡調査研究

研究課題名（英文）Transition from secondary to tertiary education in rural Kenya

研究代表者

小川 未空 (Ogawa, Miku)

大阪大学・大学院人間科学研究科・助教

研究者番号：40848610

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：基礎教育が急速に普及するケニアでは、高等教育の質とアクセスの保障という課題に直面している。本研究では、農村部の通学制中等学校の卒業生に焦点を当てることで、中等教育へアクセスできるようになった人びとが、中等教育修了後にいかに高等教育へアクセスしているかを明らかにした。その結果、脆弱な環境にある学生は成績が高ければ奨学金を得られるものの、必ずしも質の高い大学へ進学できるわけではなく、その反面、経済的制約の少ない学生は、成績が奨学生に及ばずとも私費で有名大学へ進学できていた。高等教育への進学を求める学生にとって不公正な状況が生み出され、教育が普及してもなお格差が生成されている様相が明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の対象国であるケニアでは初等・中等教育が急速に普及している。しかし、教育の普及そのものは必ずしも人びとの生活改善に接続していない。とりわけ、中等教育修了後すぐに労働市場へ移行することが容易ではなく、学力下位の生徒であっても高等教育を経由する必要性が生じているためである。先行研究では基礎教育をめぐる「アクセス」や「教育の質」についての問いが主流であり、基礎教育修了後の「アウトカム」や「アウトプット」に焦点を向けた調査が不足してきた。本研究ではその視点を補うことにより、中等教育修了者の修了後の動向を明らかにし、教育格差が生まれる一要因を新たな観点から捕捉した点で意義がある。

研究成果の概要（英文）：Kenya faces the challenge of ensuring quality and access to tertiary education in a country where basic education is spreading rapidly. In this study, a case study focusing on rural day secondary school leavers reveals how those who gain access to secondary education as a result of the rapid spread of education access tertiary education. The results showed that students from vulnerable backgrounds were not always able to enter the institution of their choice, although they could obtain scholarships if their academic performance was high enough, whereas students with fewer financial constraints were able to enrol in top universities at private expense, even if their grades were not as good as scholarship recipients. This created an unfair situation for students seeking access to tertiary education and revealed the way in which inequalities are still being generated despite the spread of education.

研究分野：比較教育学

キーワード：ケニア 中等教育 高等教育 追跡調査

## 1. 研究開始当初の背景

ケニアは、アフリカで最も急速に教育普及が進む国のひとつである。8年間の初等教育は普遍化(純就学率91%)し、4年間の中等教育も急速に大衆化(純就学率51%)している(2017年時点)(1)。しかし、就学年数の増加は、必ずしも人びとの生活改善に接続しない。その主要因に、労働市場の未発達の問題が挙げられる。とりわけアフリカでは、歴史的経緯のなかで第二次産業の発展が中抜けしており(2)、中等教育修了後すぐに労働市場へ移行することが容易ではない(3)。このため、学力下位の生徒であっても高等教育を経由する必要性が生じている。ケニアの高等教育就学者数は、ここ10年間(2005-2015年)のうちに19万人から71万人へ増加し、教育機関数は57機関から1,341機関へと激増した(1)。これらの機関は、農村部にもキャンパスを分散化し、夜間教育・土日教育・遠隔教育など複数の履修制度を提供している。高等教育は、既に一部のエリート層だけに限定されず、貧困状態を脱するために必要不可欠な教育段階ともなっている。ただし、大学間の教育の質には序列があり、また、種々の奨学金の機会も少数の学力上位層に限定されている。このため多くの中等教育修了生は、入学難易度の低い高等教育機関へ、借金による自費での進学となる。つまり、教育機会が拡大することにより、新たな格差が生み出されている可能性もあるといえる。

以上の背景を踏まえて、本研究の「問い」は以下の3つに集約できる。第一に、学力下位の中等教育修了者は、いかにして高等教育へアクセスしているのか。第二に、高等教育における教育機会の多様化は、中等教育修了者の進学ニーズに込んでいるのか。第三に、中等教育修了者の増加と高等教育機会の多様化は、困難な状況にある人びとを取り巻く教育格差の解消に寄与しているのか。これらを段階的に検討することで、次に示す研究目的を達成させる。

(1) Republic of Kenya (2018) Economic Survey 2018. KNBS. (2) 勝俣誠(2013)『新・現代アフリカ入門 人々が変わる大陸』岩波新書。(3) Närman, A. (1995) The dilemmas facing Kenya school leavers: surviving in the city or a force for local mobilization? In Baker, J. & Aina, T. A. (Eds.) The Migration Experience in Africa. pp.167-180.

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、高等教育機会の多様化が、教育格差の是正あるいは助長にもたらす影響を、ケニアの事例を基に検討することである。独立以降のアフリカ地域において、初等・中等教育は、国際社会の後押しを受け急速に拡大してきた。しかし反面、労働市場は十分に拡大していないため、多くの中等教育修了者は就職難に直面し、高等教育へのアクセスを余儀なくされている。高等教育はしかし、その質が十分に担保されないままに、土日教育・夜間教育など種々の履修制度を提供しながらケニア全土へ拡大している。本研究では、中等教育修了生を対象とした質的な追跡調査を実施し、実際に修了生がどのようなプロセスで、いかなる高等教育へアクセスしているかを明らかにする。そして、その動向を整理・分析することで、高等教育機会の多様化が教育格差におよぼす影響について考察する。

## 3. 研究の方法

本研究では、新型コロナウイルス感染症の拡大などに伴い、当初の研究背景および研究目的を計画通り遂行することができなかった。とくに現地調査は初年度(2019年度)のみに限定されている。2020年度以降は、オンラインによるインタビュー調査に加えて、政策文書の分析やコロナ禍の影響に焦点を当てた分析を行うなど、柔軟に研究の枠組みや方法を設定しなおし、より多角的に教育格差に関する研究を進めた。実際に採用した研究の方法は、特に以下の3点に集約される。

### 1) 中等教育修了者の追跡調査(当初の計画)

・中等教育終了後の学生の進学先や進路選択の経緯に関する調査

### 2) 政策文書の分析(新たな計画)

・ケニア政府の公開する国家開発目標および教育に関する政策文書の分析

### 3) コロナ禍がもたらした影響の検討(新たな計画)

・コロナ禍に対応するための政府政策の分析

・世界銀行の実施した電話調査を基にしたコロナ禍の学校閉鎖中の学びに関する分析

## 4. 研究成果

本研究の主要成果は、以下のとおりまとめられる。

### 1) 教育の普遍化と格差に関する諸外国の研究成果の比較考察

澤村信英・小川未空・坂上勝基 編著(2023)『SDGs 時代にみる教育の普遍化と格差 各国の事例と国際比較から読み解く』明石書店(2023年5月刊行予定)

小川未空「終章 教育の普遍化と格差をめぐる国際比較研究 公正の視点から問い直す」  
澤村信英・小川未空・坂上勝基 編著(2023)『SDGs 時代にみる教育の普遍化と格差 各国の事例と国際比較から読み解く』明石書店(2023年5月刊行予定)

小川未空・坂上勝基・澤村信英「SDGs 時代の教育普遍化と格差の開発研究」『国際開発研究』29 巻 2 号、5-20 頁、2020 年 11 月 [https://doi.org/10.32204/jids.29.2\\_5](https://doi.org/10.32204/jids.29.2_5)

## 2) ケニアを事例とした中等教育の普遍化と格差に関するミクロレベルの動態

小川未空『ケニアの教育における格差と公正 地域、学校、生徒からみる教育の質と「再有償化」』明石書店、2020 年 12 月、ISBN: 4750351164

Ogawa, M. (2022). Emerging inequality in Kenyan secondary schools: Dilemmas of educational expansion and quality improvement. *Prospects: Comparative Journal of Curriculum, Learning, and Assessment*, 52, UNESCO International Bureau of Education, 52, 453-468, DOI: 10.1007/s11125-022-09627-4

Ogawa, M. (2021) The Role of Low-cost Private Secondary Schools in Rural Kenya Under the 'Free Secondary Education Policy'. *Journal of International and Comparative Education*, 10(2), 97-115. doi: 10.14425/jice.2021.10.2.1205

小川未空「ケニアの中等教育における低学費私立校の公共性 教育格差に果たす役割」『未来共創』9 号、2022 年 3 月、147-175 頁

## 3) 中等教育修了者の修了後の高等教育進学プロセスの検討

羅方舟・小川未空「5 章 中国の大学におけるアフリカ人学生の留学動機 高等教育の機会の多様化がもたらす新たな格差」、澤村信英・小川未空・坂上勝基 編著 (2023)『SDGs 時代にみる教育の普遍化と格差 各国の事例と国際比較から読み解く』明石書店 (2023 年 5 月刊行予定)

Ogawa, M. Extension of the "Timepass" Period from the Perspective of Social Change in Africa, *Africa Educational Research Journal* Number 11 (2020) pp.3-14

## 4) ケニアにおける政策文書にみる教育格差是正策の検討

小川未空・坂上勝基・牧貴愛「10 章 中所得国入りをめざすアフリカ諸国の教育普遍化と格差の展望 ケニア、ウガンダ、およびタイの比較研究」、澤村信英・小川未空・坂上勝基 編著 (2023)『SDGs 時代にみる教育の普遍化と格差 各国の事例と国際比較から読み解く』明石書店 (2023 年 5 月刊行予定)

Maki, T., Ogawa, M., and Sakaue, K. The Prospect of Education Universalisation and Inequality in African Countries Aspiring to Be Middle-Income Countries: A Comparative Study of Thailand, Kenya, and Uganda. *Africa Educational Research Journal* Number 12 (2021) pp.19-36, [https://doi.org/10.50919/africaeducation.12.0\\_19](https://doi.org/10.50919/africaeducation.12.0_19)

## 5) コロナ禍の学校閉鎖に伴う学習機会の格差に関する検討

坂上勝基・小川未空・澤村信英「15 章 アフリカ諸国のコロナ禍における学習機会の格差 ケニアとウガンダの事例から」、澤村信英・小川未空・坂上勝基 編著 (2023)『SDGs 時代にみる教育の普遍化と格差 各国の事例と国際比較から読み解く』明石書店 (2023 年 5 月刊行予定)

小川未空「ケニア：学校閉鎖中の学習格差に着目して 政府の迅速な対応」園山大祐・辻野けんま編著『コロナ禍に世界の学校はどう向き合ったのか 子ども・保護者・学校・教育行政に迫る』東洋館出版社、2022 年 2 月、34-43 頁

Sakaue, K., Ogawa, M., and Sawamura, N. Inequality in Learning Engagements amid the COVID-19 Pandemic: A Comparative Study of Kenya, Uganda, and Malawi. *Africa Educational Research Journal* Number 12 (2021) pp.4-18, [https://doi.org/10.50919/africaeducation.12.0\\_4](https://doi.org/10.50919/africaeducation.12.0_4)

(Web 記事) 小川未空 (2022)『「スラムの子どもたちにとってオンライン学習はただの夢」なのか』『シリーズ・パンデミック 世界の教育現場は今』東洋館プラス、[https://www.toyokan.co.jp/blogs/toyokan\\_plus/pandemic03](https://www.toyokan.co.jp/blogs/toyokan_plus/pandemic03)、2022 年 2 月 22 日公開

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Ogawa Miku, Osaka University	4. 巻 10
2. 論文標題 The Role of Low-cost Private Secondary Schools in Rural Kenya Under the 'Free Secondary Education Policy'	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of International and Comparative Education	6. 最初と最後の頁 97~115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14425/jice.2021.10.2.1205	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Sakaue, K., Ogawa, M., and Sawamura, N	4. 巻 12
2. 論文標題 Inequality in Learning Engagements amid the COVID-19 Pandemic: A Comparative Study of Kenya, Uganda, and Malawi	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Africa Educational Research Journal	6. 最初と最後の頁 4-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50919/africaeducation.12.0_4	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Maki, T., Ogawa, M., and Sakaue, K.	4. 巻 12
2. 論文標題 The Prospect of Education Universalisation and Inequality in African Countries Aspiring to Be Middle-Income Countries: A Comparative Study of Thailand, Kenya, and Uganda	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Africa Educational Research Journal	6. 最初と最後の頁 19-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50919/africaeducation.12.0_19	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小川未空	4. 巻 第3回
2. 論文標題 「スラムの子どもたちにとってオンライン学習はただの夢」なのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『シリーズ・パンデミック 世界の教育現場は今』東洋館プラス	6. 最初と最後の頁 ウェブ記事
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小川未空	4. 巻 99
2. 論文標題 (書評) 日下部光 著『アフリカにおける遺児の生活と学校教育 マラウイ中等教育の就学継続に着目して』明石書店、2020年	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 37-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川 未空、坂上 勝基、澤村 信英	4. 巻 29
2. 論文標題 SDGs時代の教育普遍化と格差の開発研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際開発研究	6. 最初と最後の頁 5~20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32204/jids.29.2_5	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小川未空	4. 巻 95
2. 論文標題 現代ケニアにおける中等学校設立の動態 ハランベ-期との比較から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件(うち招待講演 4件/うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Ogawa, M.
2. 発表標題 Accessing higher education from low quality secondary school in rural Kenya
3. 学会等名 Comparative and International Education Society 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小川未空ほか
2. 発表標題 特別セッション「共同・協働研究を軸としたアフリカ教育研究の展開 コロナ禍の「逆境」を乗り越えるための挑戦の記録」
3. 学会等名 アフリカ教育学会第28回大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小川未空
2. 発表標題 ケニアの中等教育における学校間格差
3. 学会等名 2021年度テーマ研究会「教育と格差への共創的アプローチ」第二回（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小川未空ほか
2. 発表標題 ラウンドテーブル「SDGs時代の教育普遍化と格差」
3. 学会等名 日本比較教育学会第57回大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 OGAWA Miku
2. 発表標題 The role of private schools in rural Kenya: looking at a 'truly' free secondary education policy
3. 学会等名 64th Comparative and International Education Society (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 OGAWA Miku
2. 発表標題 How do secondary school graduates access higher education? A case study of top students from a day school in rural Kenya
3. 学会等名 The 26th Japan Society for Africa Educational Research Forum
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小川未空
2. 発表標題 ケニアにおける中等教育の急速な拡大と卒業生の進路 通学制の学力上位者に焦点を当てて
3. 学会等名 日本アフリカ学会 第57回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小川未空
2. 発表標題 ケニア農村部における中等学校の普及と格差
3. 学会等名 第55回日本比較教育学会ラウンドテーブル「発展途上国における教育の普遍化と格差」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Miku OGAWA
2. 発表標題 The roles of private schools in rural Kenya: under 'truly' free secondary education policy
3. 学会等名 The 55th Japan Comparative Education Society Annual Conference
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Miku OGAWA
2. 発表標題 Extension of the period of “timepass” with the perspective of social change
3. 学会等名 The 24th Conference of Japan Society for Africa Educational Research (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川未空
2. 発表標題 無償化政策下における低学費私立校の役割 ケニア農村部の中等学校を事例に
3. 学会等名 国際開発学会 & 人間の安全保障学会2019共催大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川未空
2. 発表標題 ケニアにおける中等教育から高等教育への移行 学力下位校を修了した成績上位者の事例
3. 学会等名 第59回アジア教育研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 小川未空 (分担執筆)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 9
3. 書名 「ケニア：学校閉鎖中の学習格差に着目して 政府の迅速な対応」園山大祐編著 『コロナ禍に世界の学校はどう向き合ったのか 子ども・保護者・学校・教育行政に迫る』	



1. 著者名 小川 未空	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 228
3. 書名 ケニアの教育における格差と公正	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------